

布の絵本とは

1. 布の絵本＝絵本＋遊具・教具

- (イ) 単に布地に絵を描いたり、刺繍をほどこしたりしたものでなく、布地やフェルト・ひもスナップ・ファスナー・マジックテープ・ボタンなどをもちい、遊びのなかで、はずす・はめる・ひっぱる・おしつける・ちぎる・あわせる・ほどく・むすぶなどの機能訓練おこなう、絵本と教具・遊具の働きをかねそなえた本です。
- (ロ) 布の絵本は聴覚・触覚・手足の運動・情緒などさまざまな障害をもつ子どもたちのためにつくられています。

2. 特徴・さまざまな種類

- (イ) 布の絵本の特徴は“絵”を着脱したり動かしたりできることです。
- (ロ) この特徴を応用してボタンはめ、ひも結び、ファスナーかけ、スナップどめなど、手や指の機能訓練をねらったものがあります。これは身のまわりの生活の自立をたすけ、さらに道具使用への手がかりをあたえます。
- (ハ) また、衣服を着せたりぬがせたりしながら、着脱の順序を追体験・再認識させ、知能の発達をうながすように工夫した布の絵本もあります。
- (ニ) さらに、こうした手や指の機能訓練をとおして、より高度な知能の発達をうながすように工夫したもの――たとえば、しりとり遊び、すうじ合わせ、大きさをくらべ、はめ絵パズル、図形遊びなど、知恵遊び絵本もつくられています。
- (ホ) そのほか、すでにある「紙に印刷された絵本」を「布の絵本」につくりかえたものもあります。布のもつ柔らかさ・暖かさ・やさしさなどが、従来の絵本では味わえない世界へみちびいてくれるとともに、視覚障がい児に感触の楽しさ、美しさを感じさせるなどの効果をもっています。

3. 布の絵本と子ども

- (イ) 布の絵本は、
 - (a) 遊びをとおして、子どもの自発性・積極性をたかめます。
 - (b) 集中力を刺激し観察力をやしないます。
 - (c) 手や指の作動感覚や応用力を発達させ、道具の使用を身につかせます。
- (ロ) ですから、布の絵本は単に障がいをもった子どもばかりでなく、健常児にもきわめて有用です。視覚や触覚を使って楽しみながら学ぶうちに集中力や観察力・作動能力をやしなうことができます。また布の絵本は、子どものさまざまな成長段階に対応できる要素をもっているため、そのほかにも幅広い用途・機能があると考えられます。視覚や触覚で多角的に楽しめる布の絵本は、子どもたちを非常にひきつける魅力をもっているのでしょう。

4. 布の絵本をつくりましょう。

すでにお気づきのように、布の絵本はすべて手作りなので大量生産はできません。しかし、そのためひとりひとりの子どもの個性に対応した本をつくり出すことができるというよい面をもっています。布の絵本をつくってみませんか。

